

随 想

酒の愉しみ

関東複写センター協同組合
理事長 吉川 昌甫

ビールのうまい季節がやってきます。
チョット一杯のつもりで飲んでいつのまにやらはしご酒…と歌の文句じゃないけれどたばこをやめると食事がおいしくなると云うが、私は酒がおいしくなり酒量が増えました。

私も多分、七つ下がりの雨で（夕方から降る雨はなかなかやまない）といって四十代から覚えた遊びは一生やめられないという意味で、生涯酒と付き合いましょう。

まずビールから始まってウィスキーの水割り、焼酎へ、特に、最近好きになった酒は焼酎であり、その呑み方として6対4のお湯割りで最初にお湯をその後焼酎を注いでかきまぜずにそのまま自然に

まかす。これが体に良く実にうまいんです。三ノ輪や押上、浅草、上野辺りの下町酒場で呑む機会が多く、ハンペン、冷奴、煮込み、オムレツ等、酒の肴が安く、おいしい店を2、3軒はしごして、行きつく所はカラオケバー、あげく帰宅はいつも午前様になります。

酒場へゆくのは、あの飲み屋にゆけば友人に会える。又、友人の紹介で思いがけない友が出来るのが酒場の善さであり、深く理解できる。酒の楽しみはコミュニケーションが円滑になり、一日の疲れを癒しイイ気持ちになれること。

酒は昔、キとかミキとかいった。これは霊という意味の言葉だそうで、寺や神社に行くと御神酒があり、これは日本だ

平成17年7月15日

中小企業だより

第三種郵便物認可

けでなく、たとえば教会の日曜礼拝に行くと、洗礼者は、牧師から葡萄酒とパンをもらいます。調べてみると英語の Spirit とかフランス語の ESprit とかドイツ語の Geist とかはすべて酒という意味と霊という意味を併せ持っている。つまり、酒イコール霊です。かつて酒はカミと人との交わりを円滑にするものだったそうです。

永く酒とつきあうためにも深酒すると肝臓に良くないので必ず休肝日をとるように心がけています。

禁煙する人はいても禁酒する人は少ない。

明日の活力の為に それでは乾杯!!

(東京都中央会 評議員)